

目的：近年の家族の個人化傾向など家族関係の変化、多様化は、種々の情報通信機器の家庭への侵入と共に今後の住宅のあり方を考える際の重要な視点である。本研究は、夫の休日の過ごし方の実態を明らかにすることにより、ひいては今後の住宅計画に資することを目的として、休日における夫の①行動、②場所、③一緒に行動した人、④時間の4軸から分析を行った。

方法：大学生の娘をもつ父親を対象に休日における生活時間調査を留置き法により行い、上記4点（場所については、住宅内では室名）を記入してもらった。調査時期は93年6-9月、94年同時期の2回に分けて実施。有効サンプル数は休日1日98、続いた休日2日157。生活行動については、調査票回収後、記入された行動すべてを洗い出し住戸内9、住戸外9の計18行動に分類統合し、住戸内外でほぼ行動が対応するようにした。なお、庭は住戸内として扱った。

結果：午前10時-11時には3-4割、15-16時にかけては半数以上が外出。この時間帯をピークに在宅率が増加し、19時で8割、22時には9割以上が在宅となる。一日中自宅にいる人が1割程度、一方でほとんど外出の人も存在する。週休1日と2日とでは外出割合に差がみられた。また週休2日の人の1日目と2日目では、起床、外出、就寝などの時刻にずれがみられた。行動内容は、住戸外は、趣味など「楽しみで出かける」「買い物」が圧倒的に多く、住戸内では「テレビ」「くつろぐ」が中心で、次に「家事」「楽しみごと」が続く。食事を除く昼間の活動時間は一人で行動している人が半数を超える。また「買い物は夫婦でいく」人が多いなど、行動によって一緒にする人に差がある。夫の休日の生活行動の実態は多様であるが、過ごし方としては「自宅でだらだらタイプ」「戸外でアクティブタイプ」ほか、「一人で行動タイプ」「夫婦で行動タイプ」「家族とべったりタイプ」などいくつかのパターンに整理された。